ロザリオとバンパイア
黄金の闘士

凱夢

注意事項

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

神のミスでテンプレ転生したオリ主前世で好きだったロザバンの世界に転生して好きに生きることにした、つくねの明日はどっちだ。

目次

設定 ―― 1
第2話 ―― 5

設定

はじめまして、作者の処女作となります、駄文ですがお付き合い願います　オリ主の設定

名前「青野つくね」
神のミスで死んだテンプレ主人公、特典を貰ってこの世界にやってくる。
特典
「本編の黄金聖闘士の技すべてをつかえる」
アテナエクスクラメーションを一人で使用可能

乙女座の黄金聖衣を神より授かっているこの聖衣にはおまけとして不死鳥座の自動修復機能がついている。
性格は普段は冷静で取り乱すことはあまりない、神のミスで死んだことを知ってもあまり取り乱すことはなかった。
ぶっちゃけ、図太くて変わってる

戦闘時は性格がかわり（とゆうか素が出る）
テンションが上がり、

殴るのも殴られるのも楽しいィィィィィィィィ!!
くらいまであがるときがある憑依は生まれた時からでだいたい5歳くらいのときに記憶を取り戻す、それからは、小宇宙燃やしたり体を鍛えたり、しながら、過ごしていたその結果セブンセンシズに目覚めさらにその先、究極の小宇宙、エイトセンシズに目覚めた

ちなみに前世の記憶は朧気にしか覚えていない
頭の良さは原作と変わらず中の下
少々脳筋ぎみ
中学時代は学校の治安が悪く、降りかかる火の粉は払うスタイルでいたため、ケンカに明け暮れた結果、あまり友人はいない。（ぶっちゃけ強すぎた）
俗に言うボッチである
陽海学園には原作と同じく父親が拾ってきた落とし物を使い入学。

学園内では最強クラスで苦戦することすらあまりない。

好んで使用する技は
打撃系ではライトニングプラズマ、エクスカリバー。
小宇宙系ではギャラクシアンエクスプロージョンと、天舞宝輪

ヒロインは、裏モカ　表モカは出るかわからない、その場合、アカーシャ生存します

他のヒロインは予定では、アクアで後は未定
(アンケートするかも?)
聖闘士星矢は聖衣と技のみであとは出る予定はないです、
この設定でいくと、つくね吸血鬼化しないようなきがする。
　どうしよう血を飲まれすぎて、貧血気味になって、変わりに、血を入れて貰うくらいなザックリ設定で逝くかも。
どうしよう青銅の技も追加使用かなー

それか他の作品の黄金の技もでるかも

聖闘士に同じ技は二度通用しない！はたぶん標準装備

手前に書いた通り黄金聖闘士は出ないけど、オリ展開の敵として、スペクターかマリーン、ゴットウォーリアが出るかもしれない。

そうなるとだいたい主人公の咬ませになるかも、ならないのは、精々、冥界三巨頭とマリーンカノンくらいかな。

そうなると、スペクターファンはいやな人とか出るかもしれない？

第2話

「さあ目覚めるのです」
なんだ?声が聞こえる。
「さあ、目を開けて」
なんだ?さっきから・・・
目を開けるとそこには。
ただ真っ白な世界が広がっていた
「どこだここ?確か部屋で寝ていたはずなんだけど?」
「この空間は神にのみ与えられる居城、その名も・・・不思議空間です!」
何言ってんだこいつ?
「・・・忘れてください。」
「はぁ、まあいいけど何で俺がその不思議空間とやらにいるんだよ?あと姿見せろ」
「これは、気付かずに申し訳御座いません」

すると、突然現れたその姿は、

「まんま、沙織さんじゃねえか!」

「ええその通りです、今はあなたの中の女神像であるこの姿を借りています。」

俺の中の?こいつ人の記憶、いや心でも読めるのか?

「そう、私はあなた方に神と呼ばれる存在、人の記憶や心を読み取る程度ならば造作もないことです」

「へぇ神様ねぇ、まあそれはいいとして、何で俺はこんな所に?部屋で寝てたはずなんだけど」

「それは・・・」

それは?

「申し訳御座いません私が、あなたを殺してしまったのです・・」

「はぁ?殺した?何で?」

「それは、まだ寿命ではなかったあなたの書類を誤って死者として処理してしまったのです、これは本来謝って許される問題ではありません、ですが・・・本当に申し訳御座いませんでした」

そう言って何度も頭を下げる沙織さ、じゃない、女神?様

「いいよ、あんまり気にしないし」

そういうと驚いた顔をして頭を上げる女神様

「どうして?私は、まだ生きるはずだったあなたを殺したのですよ?それを、そんな簡単に?」

そう言って少し悲しそうな顔をする女神様、それに対して俺は、

「まあー対した理由じゃないよ、ただ人は生まれそして死ぬ簡単な話だろ?」

そんな俺の発言に対して女神は、

「それが神のミス、などという予期せぬ死にたいしても?」

「ああ、予期せぬ死なんざそこら中に転がってるだろ？例えば、アパートの上から植木鉢が落ちてきたり、マンションの上から誰かが飛び降りて下敷きになってしまったり、それと対して変わんないだろ？」

そう答えると女神は、少し笑いながら

「少し、いや、かなり変わった方ですね？」

と、そう答えた

「まあ、それ意外にも、あんたの泣きそうな顔にキュンときたってのもあるw」

「なっなな何を言ってるんですか!!」

俺の言葉に少し取り乱しながら答えた

「まあ、いいです、それよりも本題に入ります」

本題？

「はい、これから貴方には転生システムを受けて貰います。」

転生システム？

「　なんだそれ？」

「転生システムとは神のミスや、我々、神の関与した事態により人間を殺してしまった場合に適用されるものです」

「まあ簡単に言えば死ぬはずのなかった人間を天国にも地獄にも落とす訳にはいかないので好きな世界に、いくつかの特典を持って飛ばしてしまおうと言うものです。」

「オッケーだいたいわかった、ただ特典？は何が貰えるんだ？」

「はい、特典はある程度好きなもの選んで頂いて結構です、と言っても、記憶を少し読んだせいでなんとなく分かりますけど」

女神は笑いながらそう答えた

そうだよな、なら話が早い。

「じゃあ、言うよ？」
「はいどうぞ。」
「聖闘士星矢に出てくる黄金聖闘士の技を使えるようにしてくれ、あと乙女座の黄金聖衣に不死鳥座の自動修復機能をつけた奴、それとアテナエクスクラメーションを一人で打てるようにしてくれ、あと転生先ではある程度年をとってから記憶を取り戻すようにしてくれ。」
「チートですねぇぇまあいいですけど、ただ特典に関してはその能力に見合った修行をしなければ扱うことは出来ません、なので特典は乙女座の黄金聖衣と修行をすれば、黄金聖闘士のように小宇宙の力に目覚めたりそれを限界以上まで高められる才能、記憶を取り戻すのは少し年をとってから、という形になります？よろしいですか？」
「ああ構わない」
「では次は転生先を選んでください」
少し考えて俺は、

「ロザリオとバンパイアの世界でたのむ、」
「分かりました、そうなると、もとの主人公である青野つくねに憑依という形になりますがよろしいですか？」
「まぁ、いいけど何で憑依何だ？」
俺が質問すると女神は
「それは、黄金聖闘士の力という、その世界では圧倒的な才能を差し込むには主人公という補正のある存在に貴方の魂を入れたほうが簡単すむからです」
「そうかならそれでいいや」
「ではロザリオとバンパイアの世界にご案内します、準備は宜しいですか？」
「ああ、いつでも構わない」
と、答えたその瞬間世界が暗転した